

教会短信

2006年12月3日

No. 12

牧師 間瀬 善彦

最近「いじめ」が社会問題としてよくマスコミに取り上げられています。いじめによって自殺する人も多く、子供の世界の出来事として放っておくことはできないのです。私も幼い頃は体が弱く、小学校を休んだりして、勉強が遅れ、友だちと仲良くすることができず、いじめにあったことがあります。ですから、私はいじめられる側の気持ちは、理解できるつもりですが、いじめる側の気持ちは理解することができません。いじめをして、気持ちが良いのでしょうか。動機はいろいろとあるのですが、わたしはその道の専門ではないのでわかりません。しかし、いじめは社会の中でいけないこととして、絶対に無くなってほしいです。

聖書の中に、「姦通の女」の話があります。姦通の現場を押さえられて広場に引き出された女をどう裁くかと尋ねられて、イエスは、「自分は罪がないと思う者がこの女に石を投げつけなさい」と言われました。そうすると周りにいた人びとは、自分の罪を思い出し、一人去り、二人去りして、誰もこの女に石を投げつける者はなかったのです。広場でさらし者になった女も可愛そうですが、イエスはこの女に石を投げつける資格のある者など一人もないことをあらかじめご存知で、罪がない者がこの女に石を投げつけろ、と言われたのです。つまり、誰一人として、人に石を投げつける資格のある者などいないのです。いじめに関しても同様です。人をいじめる資格のある者など一人もないのです。社会全体が、いじめは罪であるという意識を持たなければなりません。いじめが無くなるように切に祈ります。

さて、いよいよクリスマスです。イエス・キリストのご降誕の日です。キリストは、私たちに神の愛を知らせるために、この世に来てくださいました。そして、私たちの罪のために十字架につけられて殺されました。そのような仕方、神は私たちに、神の愛を示してくださいました。

クリスマスのご案内

12月24日(日)

AM 10:30~ クリスマス礼拝

PM 7:00~ キャンドルサービス

元旦礼拝のご案内

2007年1月1日(月)

AM 11:00~

クリスマスの思い出

幼い頃は、クリスマスと言えば、サンタクロースがプレゼントを持って来てくれる日と思っていました。両親がプレゼントを置いたとも知らず、サンタクロースの存在を信じていました。

その頃は、各家庭にクリスマスツリーもなく、クリスマスソングが街に流れることもなく、美しいイルミネーションなどもない時代でしたが、それなりに楽しい思い出があります。

私の学生時代は、教会へ礼拝に行っていましたので、もちろんクリスマスイヴの日は教会で過ごしました。教会の玄関に入ると、大きなツリーがありました。クリスマスの讃美歌も大勢の人たちと歌いました。クリスマスを祝う教会のご婦人たちの劇、その劇は、聖書に書かれている物語を劇にして披露します。この頃は、あまり楽しみのない時代でしたから、沢山の地域の方も見に来られるくらいに、見事な劇で、感動したり、大笑いをして見ていました。最後に有志だけでキャロリングに行きます。教会に来れない方の家を、自家用車のない時代ですから、遠方まで歩いて行きました。この日は両親に許可を得て、皆んなで教会に泊まりました。とても楽しいクリスマスの思い出です。この頃20歳前後の私は、牧師先生にクリスマスのお話を聞いても、ただイエス様が生まれた日として、クリスマスを祝っていました。

しかし、現在の私はクリスマスの本当の意味の方を重んじて、祝うようになりました。その本当の意味とは、イエスの父なる神は、地上の人間が犯す罪を見て、悲しまれ、ご自分の大切なひとり子イエスを、聖霊によってマリアを身ごもらせ、イエスを誕生させられました。神はどのような気持で、ご自分の大切なひとり子を地上に誕生させられたのでしょうか。私だったら自分の大切な子供をたとえ人々のためにでも、十字架につけられるような苦しみにあわせることができません。でも神はひとり子イエスを地上に送られ、十字架につけて、息を引き取ったイエスを神の力で復活させられました。父なる神の気持を思うと心が痛みます。

私の今のクリスマスは、「神様、ありがとうございます」という気持でクリスマスを迎えています。もちろん、教会の人たちと綺麗にツリーを飾ったり、プレゼント交換をしたり、クリスマスの讃美歌を楽しく歌ったりしますけれど、心はとても厳肅なのです。

K.M



【教会歳時記】

教会のクリスマスと新年

この「教会短信」も12号、隔月刊だから、2年ということになる。おもに郵便受に入れさせて頂いているが、教会の表・裏の入口にボックスを設け、自由に取って頂くようにもしている。表玄関は階段下で比較的人通りはない、裏はご存知、農大通りに面し、通行人も多く、持って行って下さる方も多い。

「今日は、何部減っていた。関心を示してくれた」と、一喜一憂している。

ともあれ、関心を示して頂けることに感謝している。

12月は、クリスマス。イエス様の誕生日を祝う降誕祭である。24日がイヴ、25日が降誕の日ということになる。

この教会では、25日に一番近い日曜日（主の日）の礼拝をクリスマス礼拝とし、24日は、夕刻、イヴ礼拝が行われ、キャンドル・サービス、キャロリングと称し、街頭に出て讃美歌をうたい、祈る会を行っている。

今年は奇しくも、24日が日曜日である。従って、午前中にクリスマス礼拝（主日礼拝）、夕刻、イヴのキャンドル・サービスが行われる予定である。

いずれも、厳粛にして、和やかな集いである。商戦を離れた本当のクリスマスの祝賀がここにある。

「ひとりのみどりごが、わたしたちのために生まれた…」（イザヤ書9-5）。

クリスマスとは、イエス・キリストのご降誕を祝い、救い主であるみ子を迎える日であり、年末にあたり、この一年を悔いない生き方ができたかを自分に問い、新たな気持で新年を迎える。これがクリスマスの意義であろうと思う。

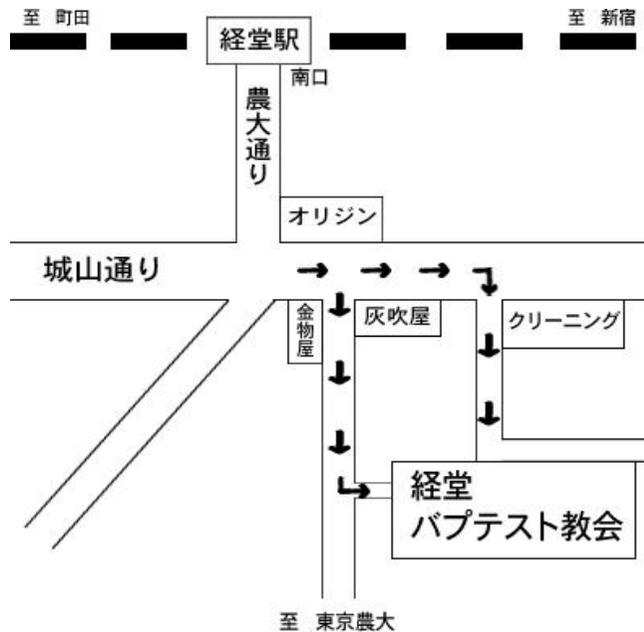
聖書を学ぶ会・祈祷会とは

この他、教会では、「聖書を学ぶ会」と言い、毎週火曜日午後、「新約聖書」を学んでいる。2005年1月より、ルカ福音書を学び、ヨハネ福音書に入っている。個人的には理解できない箇所が多い。まして2000年も前からの聖典である。聖書は、あまねく人生の指針であり、正しく生きる羅針盤である。よく理解して祈ることが、より人生を豊かにすると思う。

更に、水曜日夕刻に祈祷会・聖書研究と称し、「旧約聖書」を学び、祈りの時をもっている。壮大な歴史絵巻ともいえるシネマスコープの映画さながらの偉大な物語を学び、^{いにしえ}古からのみ言葉に浸ることができる。「創世記」から「出エジプト記」…いわゆる「モーセ五書」を終え、現在「サムエル記上」の終章にかかっている。少人数なので、あたかも個人教授を受ける如く、心にしみるように教えて下さる、豊穡の時間である。これらの集いにも、どうか参加して頂きたいと、願っている。

集会案内

主日礼拝	日曜日	午前 10時30分～11時30分
教会学校	日曜日	午前 11時45分～12時30分
青年科・成人科		
聖書を学ぶ会	火曜日	午後 1時 ～ 2時
聖書研究・祈禱会	水曜日	午後 7時30分～8時30分
英語教室 (英文法)	火曜日	午後 7時30分～9時
(英会話)	金曜日	午後 7時 ～ 8時30分



経堂バプテスト教会

牧師 間瀬 善彦

〒156-0053 世田谷区桜1-64-30

TEL 03-3426-0071

当教会は、エホバの証人、モルモン教、統一協会とは一切関係ありません。